



## 株式会社ファイネックの社員7人が

## 「ものづくり日本大賞」で経済産業大臣賞を受賞



- 1 経済産業大臣賞を受賞した株式会社ファイネックの社員7人と本木社長。社員一人一人に「ものづくり名人」の賞状と銀色に輝くメダルが贈られた
- 2 工場も兼ねる本社社屋
- 3 顧客のニーズに合わせ、最適な刃先の形状を研究開発
- 4 髪の毛も碁盤の目状に切断することができる同社の刃物

**【企業情報】**

- 所在地=西浜武 575-1
- ☎ 73・0877
- 資本金= 8500 万円
- 代表者= 本木敏彦
- 従業員= 259 人

高い技術で日本の産業を支える人材を表彰する「第7回ものづくり日本大賞」で、産業用刃物メーカーの株式会社ファイネックで技術開発を担当する秋山秀親さん（南浜武、42歳）ら7人が、経済産業大臣賞に輝きました。

「ものづくり日本大賞」は、製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材

など、「ものづくり」に携わっている各世代のうち、特に優秀と認められる人材を国が表彰するもの。

今回、「フィルム等の切断現場の大幅コスト削減を実現する超硬合金素材による高精度刃物の開発」というテーマで、

全国270件の応募の中から経済産業大臣賞に選ばれたもので、市内企業の社員が同賞を受賞するのは初めて。

同社が作る刃物は、ダイヤモンドに次ぐ硬度を持つと言われるタンクステンを主原料とした超硬合金を使用。硬い一方で欠けやすいため、加工が難しいとされる超硬合金ですが、秋山さんらのチームは高度な加工技術で、切る素材に最適な刃物をオーダーメイドで作ることができます。

通常の刃物を使った場合、切断面に小さなひびが入ったり、粉が出たりするため、切断後に磨きや洗浄、乾燥など

の2次工程が必要ですが、同社の刃物を使えば2次工程がいらなくなり、大幅なコスト削減が実現できるようになります。

同社の刃物による切断品質は業界で評判になり、現在ではスマートフォンやタブレットに使われる高機能フィルム

の切断をはじめ、自動車や医療、電子部品、食品産業など幅広い分野の生産現場で活用され、同社の売上げの半分を、担うまでに成長しています。

同社の本木敏彦社長（間、65歳）は「彼らがいることはわが社の誇り。次は金メダルの内閣総理大臣賞を目指し、柳川が『観光と刃物のまち』と言われるように頑張りたい」と話しました。

**【問】市商工・ブランド振興課企業誘致・ベンチャー支援係（☎77・8762）**